

CYCLING REVOLUTION

Road to SHIMANO Bikies Jamboree 2020 by Touring Competition

【サイクリングとは・・・レースを含むスポーツサイクリング全般】
「スポーツサイクリング」が日本を変える？ “サイクリング”の標準化を目指して！

・・・始まりのための終わり・・・

ハード別に仕掛ける「自転車ソフト三原色」
インフラ整備も呼び掛ける「サテライトイベント」
ハートを繋ぐ「地域密着マルチ型サイクリングクラブ」
究極の自転車ソフト「バイカーズジャンボリー」

(起 / ハードについて)

ブーム≡自転車が売れている状況！
その理由は？ その波及効果は？ そして課題は？

ハード別に仕掛ける「自転車ソフト三原色」

日本の自転車ブームはハードに依存していると言っても過言では無いでしょう！

余暇活動や旅行ブームを背景に、ランドナーや輪行車が売れた第一次、第二次のサイクリングブーム。
トライアスロンの登場やアウトドアブームに呼応した、ファニーバイクやマウンテンバイク。
そして、地球温暖化に端を発した平成のエコ系自転車ブームでは、小径車やロードバイクが売れています。

そう言った車種の登場に合わせたように、
関連した組織・団体が生まれ、乗る場所を提供するためのイベントが開催されますが、
ブームが去るとそれらも縮小しているように感じられます。

ファンや愛好者は当然存続し続け、梯子を外された状態と言えなくもないでしょう。

ハード先行のブームのため、
インフラ、マナー、ソフト等の、自転車走行環境整備が置き去りにされる傾向が繰り返され、
世界基準のスポーツサイクリングが普及していないのも事実です。

それならば、ハード(車種)に着目し、“**組織的に遊ぶツーリングコンペティション**”を基軸に、
課題を洗い出す作業を急ぎましょう！

◆**ツーリングコンペティション**・・・レースとツーリングの境目の個人タイムトライアルから、マップ
リーディングとサイクリングが合体したサイクルオリエンテーリングまで、何らかの成績の出
る(※注)オープンロードでの自転車ソフトの総称として提唱しています。

(※注・・・成績が出るとは1人では無いことを意味していて、参加者を募る前提のため、組織的な遊びというカテゴリーが在る。)

◇**小径車&実用車バージョン(街なかポタリング)**

・・・THT26◆◆自転車さんぽ《SBF内メニュー:トレジャーハントツーリング・他》

◇**マウンテンバイクバージョン(山道MTBラリーレイド)**

・・・とれとればいく《SBF内メニュー:ツーリングエンデューロ》

◇**ロードバイク&ツーリング車バージョン(街道ファストラ)**

・・・ナショナルブルベ《SBF内メニュー:未実施≡グランツーリング》

★課題の洗い出し・・・タイミングと要素・・・関係各所を回る予算と時間を下さい！

(承 / インフラについて)

課題の最たるものは、使って、消耗して、どんどん買い換えてもらう為のインフラ(≡自転車走行環境)

インフラ整備も呼び掛ける「サテライトイベント」

インフラと言うと自転車専用道や自転車走行レーンを思い浮かべるのは自然だと思います。

しかし、自転車は軽車両のため、原則は車道の左端走行で、最近では混乱していますが歩道走行も緊急避難的に認められています。

さらに複雑にしているのは、自転車には常用速度の違いで歩行者的利用と自動車の利用があり、スポーツサイクリングは後者に分類されますが、物理的に逆走を強いられる場所や、法律的に自転車が走行できない車道があつて、道路上で市民権を得られていない現状があります。

そのため繰り返されるブームの後半に、インフラ整備の話しが必ず出てきますが、普通の道を普通に走るためのグランドデザイン≡交通基本法という核心に至る前に、失速するのが常でした。

正に、卵か？鶏か？と言った話しですが、一気に交通基本法や自転車の市民権獲得は無理なので、**インフラ整備の重要性を訴えて行く、実験的なサテライトイベントを各地で行うことを提案します。**

◆サテライトイベント・・・シマノバイカーズフェスティバルで既に実現！（但し、単独企画では解決できない課題もあつて発展途上中！）（メインは、オフロードまたはオンロードのエンデューロレースで、サブとして、各種ツーリングメニューを揃える。）

※会場内のステージや特設コースで、ブリーフィングやレース志向参加者やスクール希望者もケアしながら、CMブースやグルメブースを展開し、イベントとしての体裁を整える。

※前頁の自転車ソフト三原色の「街なかポタリング」、「山道MTBラリーレイド」、「街道ファストラン」を実施することで、会場周辺の様々な道路を網羅できる。

※特に「THT26◆◆自転車さんぽ」は、日常利用とスポーツ利用の境界線ソフトで、わらしべ効果や観光メンテナンス効果を有しており、積極的な地元協力者の出現が期待されます。

★サテライトイベント候補エリア・・・可能性の検討・・・別途企画書を作成させて下さい！

(転 / ハートについて)

自転車にとってのインフラ(課題)は、道路や施設だけじゃない！
流通チャンネル、日常のセキュリティ、そしてサイクリングネットワーク、つまり人の繋がり！？

ハートを繋ぐ「地域密着マルチ型サイクリングクラブ」

ところで「自転車」は、「国交省」「経産省」「文科省」「警察庁」のように関係省庁も多く、
輪界では「ハード＝自転車／インフラ＝道路」なのに、
都市交通再生の集まりでは「ハード＝道路／ソフト＝標識」と語られることがあります。

その結果、道路を整備しても、施設を作っても、仏を作って魂入れずの状態が出現します。

また、インターネットによる、流通チャンネルの激変や情報入手の多チャンネル化によって、
スポーツサイクリングがより身近になっていますが、
コミュニケーションツールとしての「自転車」の良いイメージを損なう可能性を秘めています。

それは、イベントへの申し込みでも“空中戦と地上戦”に例えられるよう、
店頭申込からWeb申込へと変化しており、
ファーストコンタクトやノウハウ伝授の機会が薄れているからです。

「自転車」にとっての「インフラ」とは、日常の自転車走行環境だと考えます。
つまり、日常のセキュリティや、情報発信も担うショップもインフラに含まれるのではないのでしょうか？
その広義のインフラを提唱するにしても、輪界からの声が大きくならなければ、意味がありません。

そのための**人材育成を含めた「サイクリングネットワーク再構築」**が、
この「CYCLING REVOLUTION」の**核心**となります。

- ◆サイクリングネットワーク再構築・・・ブーム毎にベクトルの方向や強弱が変わっていますが、
輪界や自転車愛好家の声を届けるには、その向きを揃えて声を大きくする必要があります。
- ◇日常のセキュリティ・・・自転車ソフト三原色を用いて、そのメンテナンスを試みる！
- ◇サイクリストライセンス・・・普通の道を普通に走るにしても、サイクリングの掟を決めよう！
- ◇地域密着マルチ型サイクリングクラブ・・・ショップ、ユーザー、行政の三位一体の組織で、定期的なスクールの実施や、「自転車目線(※注)」の街づくりを推進する。

(※注・・・自転車旅目線が本来で、各地を比較したり、歩行者と自動車の気持ちも分かるスマートサイクリングシティの提案が可能。)

★企画協力者探し・・・シマノへの期待と自転車関連団体の連携・・・錦の御旗を下さい！

（結／ソフトについて）

課題解決のためのソフトの標準化とは？

究極の自転車ソフト「バイカーズジャンボリー」

これまでの3ページは、
車種別フィールドにマッチしたツーリングコンペティションを駆使しながら、
三位一体の協力者の居る拠点エリアで、モデルイベントを実施しつつ、
それらと連携して本大会への関心を高めるもので、
30周年記念SBF2020に向けての同時並行作業になります。

そのSBF2020は、ジャンボリー形式のアウトドアの祭典として実施します！

ジャンボリーとはキャンプと選べるメニューが特徴のアウトドアフェスティバルで、
様々なジャンルで行われていますが、やはり日本人は苦手とするものです。

何故、苦手なものを敢えて行うのか？
課題の洗い出しや、問題提起、そして協力者探しが順調に行ったとしても、
課題が解決されているとは限りません。

その時点で実施可能な、より理想に近いジャンボリーを実施して、
それまでの活動報告や**協力者の交流**を行うのが第一目的で、
その上で、課題解決に向けた**活動の継続を確認**することが第二の目的です。

つまり、**始まりのための終わり**です。

◆究極の自転車イベント・・・“UCI CYCLING REGULATIONS”にある「CYCLING FOR ALL」もそうですが、日本国内であれば世界に例の無い数があるベロドロームを組み込んだ、全ての車種、全ての競技、全てのツーリングを実施して、さらにサイクルショーも併催する「サイクリングの2週間」が考えられます。

◇春需でソフトも売ろう！・・・ショップの活用と日本の実情に合った自然増殖するソフトの模索。

◇自転車ソフトの標準化・・・普通の道を普通に走るレベルからレースまでのマニュアル作成！

◇自転車遊びの機会均等・・・奥座敷型と地産地消型の情報共有がスポーツサイクリングの原点。

※継続課題・・・自転車旅目線の交通基本法（旅人法）、フィールドを選ばない日常のセキュリティ、マルチサイクリングクラブの定期実施スクール、スマートサイクリングシティの具体化。

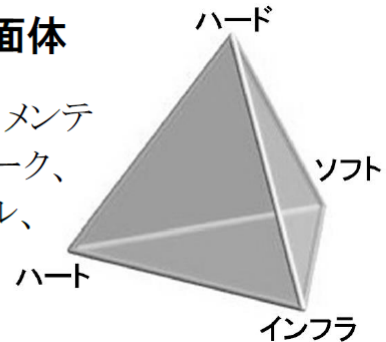
★30周年カウントダウン企画・・・マルチCCとSイベントの目途が・・・3年前から徐々に盛り上げましょう！

(雑感) / テトラバランスについて

「ハード・インフラ・ハート・ソフト」 = 「起承転結」 = 「課題 / エリア / 人材 / 交流」

【テトラバランス】 自転車環境正四面体

自転車多様性を、**ハード:自転車**(作る、売る、使う、メンテナンス)、**ソフト:使い方**(楽しむ、仕掛ける、ネットワーク、日常と余暇)、**ハート:人**(テクニック、マナー、ルール、スクール)、**インフラ:環境**(道路、セキュリティと保険、イベント、サイクリングクラブ)の4つに凝縮。



「CYCLING REVOLUTION」ではテトラバランスの「ハード」「インフラ」「ハート」「ソフト」に、「起:課題の洗い出し」、「承:サテライトイベント候補エリア」、「転:企画協力者探し」、「結:カウントダウン企画」を当てはめていますが、その“キッカケ”と“目的”は下記になります。

2011年3月14日付け『日常とイベントの狭間を埋める「スポーツサイクリング研究会(仮称)」を提案して下さい。』より。

わらしべ企画の獲得・・・トレジャーハントツーリング26 (THT26)は、年齢性別車種不問で楽しめる逆転の発想のサイクルオリエンテーリングです。そのため主催者の大小を問わず、等身大の運営が可能で、また多彩なバリエーションも考えられ、個人、ショップ、NPO、行政と、思わぬ繋がり、思わぬ展開を魅せる、わらしべ企画となっています。

そのため、平成のエコ系自転車ブームにあって、日常利用とスポーツ利用の橋渡しの役割を改めて感じているところです。

自転車遊び三原色とテトラバランス・・・そのわらしべ企画「THT26」に特化した展開(THTジャパン・仮称)を2010年秋に決断しましたが、2007年より再提唱しているツーリングコンペティションの「自転車遊び三原色」を再々導入した、自転車走行環境正四面体「テトラバランス」を2011年2月に思いつきました。

では何故「THT26」に特化しようと決断したのに「テトラバランス」を思いついたのか？世界的に見た時、日本はロードバイクとマウンテンバイクがアンバランスであること、そして、マナーが置き去りにされている今の自転車のブーム、この2点において多様化の進んでいる「自転車文化」をどう表現するか悩む中、立体的な関係図を思いついたところです。

そして決定的だったのが、東日本大震災です。サイクリングで巡る日本の風光明媚な自然は、著しい地殻変動の上に成り立っています。自然に対する畏敬の念や感謝の気持ち、そういった共通認識を持ち続けるためのサイクリングネットワークが、自転車走行環境正四面体の大前提だからです。

ソフトも売ろうよ!・・・さて本題です。自転車に最初に遭遇するのは、自転車店です。そこで春需に合わせてマナーやソフトも売れることを真剣に考えませんか？但し、ショップの置かれている現状も厳しく、またショップにも温度差があるため、「スポーツサイクリング」の実践&普及を、ショップや行政と連携しながら進める「地域密着マルチ型サイクリングクラブ」を各地に設立するのはどうでしょう？

スポーツサイクリング・・・この新たな提案の「スポーツサイクリング」は、自分達の楽しむ場所は自分達で確保するというもので、「地産地消型」と「奥座敷型」が考えられます。また、地域貢献も視野にマナーの部分で「自転車ベーシックスクール」のマニュアル化も考えて行きます。

もちろん単年度で確立できるものでもありません。逆算して2013年春の完成を目指す「スポーツサイクリング研究会2013(仮称)」を提案して下さい。ショップや地域と連動したスポーツサイクリング活動は、「自転車走行環境正四面体＝自転車文化」を満足させると思われます。

※この時点では「サイクリングとは・・・レースを含むスポーツサイクリング全般」や「サイクリングの標準化」には考えが至っていません。

※また、この提案は表現を変えながらも、一貫して「地域貢献活動＝自転車市民権獲得」を実現するマルチCCを提唱するものです。